

〔補遺〕

舟田久之・仙黒邦行・松川宗夫・石坂正・共著
 「路面温度および凍結予測手法の開発」の補遺

((防災科学技術研究所研究報告第50号 p.p.193~231 1992年 12月 掲載))

表 11 に記したのは下記の予測式中の係数ならびに定数を示したものである。
 予測式の一般形は次の通り。

$$T = a_1 T_{15} + a_2 T_{D15} + a_3 T_{85} + a_4 T_{70} + a_5 T_{85} + C \quad (1)$$

但し、ここで T は立山町における予測最低路面温度 (°C)、 T_{15} は前日 15 時の立山における気温、 T_{D15} は前日 15 時の富山における露点温度 (°C)、 T_{85} は前日 9 時の輪島における 850m 気温、 T_{70} は前日 9 時の輪島の 700m 気温、 T_{85} は前日 21 時の輪島の 850m 気温、 a_i ($i=1 \sim 5$) は常数 (表 11 中の値)、 C は表 11 中の定数を表す。尚、表 11 中の状況 (型) の「無し」は路面状況別に分けない場合の常数や定数を示し、天気型は当日の午前 3 時の天気、天気型の「無し」は天気を分類しない場合の常数や定数を示している。これらの予測式の精度は表 11 中の最後の欄の標準偏差の値の大小で評価できる。標準偏差が小さいほど予測精度が高いことを意味する。これらの予測式により、 T_{15} 、 T_{D15} 、 T_{85} 、 T_{70} の実測値を用い、気象庁の数値予報図より T_{85} を読み取り、気象庁の天気予報を利用して 3 時の天気を推定することによって、当日 18 時頃までに翌朝の最低路面温度を予測することが可能である。

同様に、茶屋町の予測式は次式で与えられる。

$$T = a_1 T_{15} + a_2 T_{D15} + a_3 T_{85} + a_4 T_{70} + a_5 T_{85} + C \quad (2)$$

但し、 T は茶屋町の予測最低路面温度 (°C)、 T_{15} は前日 15 時の茶屋町における気温であり、他の記号は式 (1) と同じである。但し、式 (2) 中で使用される諸係数は表 12 の値である。